

第 29 期第 2 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 令和元年 5 月 17 日（金）10 時 00 分～11 時 45 分
仙台市役所本庁舎 2 階 第 3 委員会室
- ◎ 出席委員の氏名 遠藤仁委員、加藤則幸委員
小林直之委員、今野広元委員
新迫宏委員、菅原孝代委員、杉山秀子委員
根岸一成委員、渡辺祥子委員、渡邊千恵子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 武者元子、市民図書館副館長 松島桂一
泉図書館長 高橋三也、宮城野図書館長 柴田聡史
太白図書館長 田中千代子、広瀬図書館長 相澤滋
榴岡図書館長 今野宏、若林図書館長 山口宏
市民図書館企画運営係長 早坂江美子、
市民図書館奉仕整理係長 山田千恵美

◎ 会議の概要

1 開 会

2 挨拶

3 議長の選出

仙台市図書館条例施行規則第 14 条第 3 項に基づき、遠藤仁会長が議長となった。

4 会議録署名委員指名

会長より、加藤則幸委員を指名。

5 報告事項

(1) 令和元年度仙台市図書館運営方針・事業計画について

市民図書館副館長より、資料 1 に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

議長

これまで協議会で出た意見を丁寧に拾い上げて事業計画を立てていただいた。ただいまの報告に対して委員の皆さんから質問や意見はあるか。

学校現場の震災教育はどのような形で行われているか。年数を経るに従って、震災資料の件数が減ってくるとともに人々の記憶も薄れ、防災教育が難しくなっているのではないか。

加藤則幸委員

中学校でも定期的に防災についての話し合いはしているが、その際に防災に関する資料を上手く活用できれば良いと思う。中学生は、小学校に入る前に震災が起こり、実感を持って語れない世代。我々としても遠い話にならないようにしている。

菅原孝代委員

防災教育全体に関してだが、例えば地盤が弱い地域であれば、地震に備えて地域とともに防災訓練を行うとか、土砂災害のレッドゾーンに該当する地域では、土砂災害に対する防災教育を手厚くするなど、学校の立地条件によって防災計画全体が違ってくる。震災に限定すれば、小学生では、4、5、6年生を除いてほぼ震災の記憶がなく、昔こんな地震があったと伝え聞く世代になってきた。本校でも、3月11日を中心に講師の先生を迎えるとか、学校の朝会で話をするなど風化させないための取り組みを進めている。前任校では、防災の本を図書室に展示するなど意識化を前提とした活動を展開していた。どの小学校でも取り組みは進めているが、図書資料が各学校に多くあるかという点、意図的に集めていかないと難しいのが現状だ。

議長

学校で防災関連の指導をする際に、どこに頼むか、どこに資料があるかという時に、市民図書館とうまくつながることができればよいが、その辺りをどう工夫していくか。そのほかの部分でも、質問や意見があるか。

小林直之委員

震災の記憶が小学生などでは薄れていくという話であったが、そういう時だからこそ、力を発揮するのが本だと思う。ご存知のとおり、書店では、震災の棚はだんだん薄くなってきており、全国的にもおそらく被災地しか、震災関係の本を揃えている書店はなくなっている。こうした状況の中、震災から数カ月で出版された本も手に入るのが図書館だ。3.11 震災文庫は宝になる。これを継続して本を集めていくとともに、震災のことを思い出すときに本があることを、3.11 震災文庫で是非アピールしていただきたい。

事務局

学校に貸し出しているテーマ別パッケージについて、防災に関するパッケージの充実を図りたい。ぜひ調べ学習等々に活用いただければと思っている。震災の資料が年を経るにつれて貴重になるというのはそのとおりで、今は地道に積み重ねていく時期と思っている。一方、常に繰り返し発信し続けることも大事である。市政だよりで「3.11 震災文庫を読む」を連載しているほか、今後はツイッターでの発信を考えている。図書館の役割のひとつとして、さまざまな手法で震災を語り継いでいきたい。

杉山秀子委員

「障害のある子どもの状況に合ったサービスの提供」について、障害のある子どもが利用しやすい環境づくりというのは具体的にはどういうことか。宮城県図書館で月2回おはなし会をしているが、障害のあるお子さんも多く、私たちとしても勉強し、環境を整える必要があると感じる。仙台市図書館の手話付きおはなし会は、参加するお子さんの年齢層等具体的にどのような形で進めているか。また、「児童館や子育て支援施設等との連携事業の実施」とは、具体的にどのようなことをするのかうかがいたい。

事務局

「障害のある子どもの状況に合ったサービスの提供」としては、特別支援学校や特別

支援学級向けの貸し出し用パッケージを準備しており、利用頻度は高い。手話付きおはなし会も開催し、手話ができる聴覚障害のある職員が、手話によるあいさつの仕方などの説明や、読み聞かせの隣で手話を行った。年に一度の市民図書館でのイベント「とぷらすウイーク」でも、外部のボランティアによる手で話すおはなし会を開催した。年齢層は、小学生以下の小さいお子さんの参加が多い。

杉山秀子委員

障害のあるお子さんも健常のお子さんも一緒に参加するのか。事前に手話付きである旨広報をしているか。

事務局

手話付きということで広報をしていることで、聴覚障害のあるお子さんが比較的多く参加しているが、どなたでも参加できるようにしている。

児童館等との連携については、児童館に出張しておはなし会や、子育て支援施設のびすくと連携したおはなし会を、今後も引き続き行っていきたい。若林図書館の近くにも新しくのびすくができ、連携しておはなし会を実施し、たくさん子どもたちが参加している。

杉山秀子委員

児童館でのおはなし会についてだが、小学生に向けたおはなし会が難しいと聞くことがあるので、図書館の方による本の紹介などを通じて、学校と離れたところで子ども達が本に触れ合えるのは良い方向性だと思う。是非小学生が参加できる場を作っていただきたいと思う。

事務局

今後も児童館等と連携しながら取り組んでいきたい。

議長

出前のような形で学校や児童館に図書館の方が来ていただけるのは有り難い。本務を離れて外に出るには限度もあると思うが、啓蒙的な活動を続けていただきたい。

渡邊千恵子委員

令和元年度の重点に、ツイッター等のSNSを活用したプッシュ型の広報への取り組みを進めるとあるが、詳しく教えてほしい。

事務局

具体的にはツイッターを始めるということで、仙台市としてSNSを立ち上げる際に運用ポリシーや運用計画を策定する手順があるため、現在それらを進めているところである。仙台市図書館共通のアカウントで各図書館から情報を発信することになるが、YA世代や若い世代に対する訴求力を意識しており、若い方向けの情報を中心に、図書館全館に関するお知らせやイベント情報、楽しい話題等を発信していきたい。

渡邊千恵子委員

ツイッターやホームページなどは、作っても見てくれるとは限らない。そこをどう工夫するかが必要だ。中学生では、スマートフォンを持っていない生徒もおり、高校生が

スマートフォンを持ってはいても、図書館のツイッターが出来たからと皆が見るわけでもない。もっと何か高校生が図書館に求めるものをリサーチするとか、高校に対して、課題研究や体験学習に関して求める資料が図書館にあるということをうまく伝えることができれば、ツイッターを見てみようと思うかもしれない。作っただけにならないよう、ニーズにあったものを情報内容にして、効率よく工夫をしていくとよいのではないか。

事務局

まさにそのとおりだ。仙台市図書館の中には、YA世代が活動している図書館もあるので、YA世代の声も拾いつつ、楽しく発信していきたい。

小林直之委員

私も職場でツイッターを担当しているが、7年間続けてフォロワーが約五千人という状況だ。ツイッターは、ファンづくりの媒体であり、双方向というのは実は難しく、一方向で送り出すということを考えれば、何らかの特徴が必要だ。館全体で1つのアカウントを考えているという話だが、それよりはむしろ「YA担当者がつぶやくYAの皆さんへ」というアカウントにした方が、より届きやすい。また例えば、「3.11 震災文庫」というアカウントで、毎月11日には震災関連の本を11冊ツイートする。そのように発信に特徴を置いた方が、より受け取りやすく、フォローしやすいと思う。

事務局

どのように運営するか図書館内で相談しながら進めていきたい。

加藤則幸委員

『いじめ・命』に向き合う本」ということで、3月にブックリストが各学校に一斉配信された際、本校の中学校の図書室に掲載された本があるかどうかをまず確認した。いじめや不登校、いのちに関わる問題は、対応が必要な問題だ。まず先生方が掲載された本を読み、それを子どもたちに語ってくださいと伝えている。今いじめや不登校に関するさまざまな試みがあるが、実際に相手の心情を考えるには読書が非常に有効だ。いじめの問題は、子どもたちが深く考える場面をどのように作っていくかだと思っているので、このリストを提供していただきとてもありがたい。

事務局

本リストは各図書館のヤングアダルト担当が選書を行ったもので、図書館ホームページにも掲載している。

菅原孝代委員

ツイッターを活用したSNSの広報は大変興味深い。小学校の図書館部会を通じて先生方に周知できるので、ツイッター開始時期と開館時間繰り上げの本格実施の時期が分かればお教えいただきたい。

また、移動図書館についてだが、本校も前任校も学校の敷地内に移動図書館が来ており、子どもたちも保護者の方も利用でき、ありがたいと思っていた。どちらの学校でも、移動図書館が来る日を学校便りの行事予定に掲載し、本校では移動図書館が来ている旨の校内放送をかけており、大きな効果を上げている。

ブックリスト『いじめ・命』に向き合う本』は、大変素晴らしい。これらの本に子どもがたどりつき、読み終えるには読む力も必要だ。小学校低学年やより小さな頃から、本に触るところから、挿絵やイラストを見るところから、聞くところから、読書に入っていけたらよい。それが小学校教育に求められていると思っている。

議長

学校に移動図書館が来ることは、初めて知った。事務局から何かあるか。

事務局

移動図書館は、図書館サービスの空白地帯に76ヶ所のポイントを回っており、いくつか小学校の敷地をお借りしている場合がある。他にもスーパーの駐車場や市営住宅の駐車場、集会所をお借りする等、地域の状況に応じてご協力いただける場所に巡回している。学校に協力いただいている場所は、子どもたちに利用しやすい環境で相乗効果が得られている。スーパーの敷地内のポイントは、地域の方に人気がある。

ツイッター等の開始時期は、なるべく早くと考えており、決まり次第ホームページ等いろいろな形でお知らせしていきたい。小さい頃からの読書というご意見や防災については、防災おはなし会等も開催しており、小さい頃から防災に限らず読書に親しむという気運を育てていくことが非常に大事と思っている。

議長

いろいろご意見を頂戴した。本報告についてはこれで終了とさせていただきたい。

(2) 令和元年度仙台市図書館予算概要について

市民図書館副館長より、資料2に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

議長

財政状況が厳しさを増しつつある中で、図書館の予算が維持できていることが素晴らしい。委員の皆さんから質問や意見はあるか。

この件に関してはよろしいか。

各委員

了解。

(3) 平成30年度蔵書点検結果について

市民図書館副館長より、資料3に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

議長

ただいまの報告に対して、委員の皆さんから質問や意見はあるか。

この件に関してはよろしいか。

各委員

了解。

- (4) 平成 30 年度仙台市図書館利用者アンケート及び窓口アンケート集計結果について
市民図書館副館長より、資料 4、参考資料に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

議長

自由記述など各館で丁寧に拾いあげてくれた。図書館協議会 3 期目になるが、図書館のサービスが年々向上しているのを実感している。委員の皆さんから、質問や意見はあるか。

渡辺祥子委員

アンケートや懇談会、ご意見箱等さまざまな形で意見を聞く姿勢が素晴らしい。この中で、図書館の本質、これがあるから図書館だと思うことがいくつかあった。個人的な見解だが、本の良さとは、本自体が単なる情報ではなく、存在であることだ。ある方が本当に辛い時に、本を抱いて寝たという話を聞いたことがあるが、本には、書いた方や、情報だけでなく、手渡してくれた人や、司書や職員の方や、文庫の方との関わりなどがあるからでないか。資料 4 の宮城野図書館へのご意見・ご提案で、「子供が貸出カードを渡したら、親ではなく子供に返してほしい。とても喜ぶので。」とある。図書館職員の方も自身の存在意義や役割に気付くことができるご意見だ。若林図書館の利用者懇談会では、「図書館に近いという場所柄、のびすくで絵本の貸出はせず、図書館を案内している」とあり、広瀬図書館の利用者懇談会では、児童館の職員から、子どもたちに「メッセージを伝えることができる本の紹介やセレクトといった形で助けてもらえると大変嬉しい」という意見があった。連携の大切さや、それぞれの専門分野での人との関わりを通じて、利用者の生活に光を灯す役目を果たすという図書館の存在意義もうかがえると感じた。

今野広元委員

アンケートで、1 割近く批判的な意見があるのは残念だが、7～8 割が肯定的な意見というのは素晴らしい。図書館を利用された方は概ね好意的な意見を持っているのだろう。図書館では、職員の方が静かに応対しており、落ち着いて利用できるのではないか。SNS を始めるということで、今後若い方たちの利用も増えていくかもしれないが、高校生のグループなどが騒がしい時には、職員としても注意するなどの対応を取った方がよいだろう。図書館は、学校や P T A 以外の一般の方に対するメッセージ力が少ないように感じている。いじめの問題は、学校だけでなく地域の方を交えて取り組むことなので、一般の方に対しても広く P R したほうがよい。ターゲットを絞る際には、例えば、5 0 代の方にお勧めの本とか、地域の子どもたちを守るための本といったテーマも良い

のではないか。

議長

たくさんの意見をいただいたので、出来ることから取り組んでサービスの向上に努めていただきたい。

(5) 仙台市図書館の現状について

市民図書館副館長より、資料5に基づき説明。

〔委員からの主な質問・意見〕

議長

前回の会議において要望があり、事務局で資料をまとめてもらった。図書館などは、数値で成果を測られることが多いが、問題は数値だけでなく質的な問題をどのように向上させていくかということだ。図書館は宣伝が控えめな点が課題とは思いますが、委員の皆さんいかがか。

渡邊千恵子委員

議長がおっしゃったように、数値よりも、質的なものが非常に大事だ。上位に来ている市の図書館のいわゆるグッドプラクティス（優れた取組）を仙台市でも取り入れることができるのか見ていくことが重要だと思う。例えば、仙台市の図書館数が少ないのは、図書館の持ち方の違いなのか、人口比はどうか等を踏まえて検討してみることだ。今後、グッドプラクティスを取り入れて、より良いものにしていただきたい。

事務局

資料のとおり、仙台市は区に1つずつの地区館5館と分館2館の7館と図書館数が少ない現状にあるが、1館あたりの規模が比較的大きい傾向にある。人口減少の局面に入る中で、これ以上のハード面の整備は難しい。図書館空白地域を埋める取り組みとして、昨年度、予約受取を主とする新しい窓口としてサービススポットを設置したところであり、まずはソフト面の取り組みを進めていきたいと考えている。また、多くの蔵書を市民の方々により活用いただくにはどうすればよいか、考えていきたい。

菅原孝代委員

資料2を見て、資料購入費以外に予算が多く使われていることに驚いたが、資料5を見て納得した。図書館数では18位となっはいるが、年間貸出者数では8位となっており、サービススポットや移動図書館車の運営などさまざまな工夫をしている結果なのではないかと感じた。

新迫宏委員

確かに図書館数が少ないが、注目すべき図書館の成績表となるのは、市民1人当たりの年間貸出冊数だと思う。15位はかなり下位の方で、図書館数とあわせてみると、さいたま市が図書館数も年間貸出冊数も多いのではないか。もちろん質の問題もあるので、単純に比較はできないが、少ないなりの理由があるのではないか。一方仙台市は、児童

図書数と子ども向け事業参加人数が充実している。そうすると、年齢別の貸出冊数を他の図書館と比較して、年齢構成的に仙台はどの辺が多くてどの辺が少ないか、児童関係は多いのか、中高年向けは少ないのか等対策を打つヒントになると思う。泉図書館の利用者懇談会で、大人向けの事業が少ない、特にシニア向けの講座を増やしてほしいとの意見が出ているし、年齢構成による分析をしてはいかがか。

杉山秀子委員

特に日中の図書館では、割と年齢層の高い方がじっくり本を読まれているのを目にする。図書館数が18位というのはとても残念だ。高齢になると遠くに行くのが難しくなるし、身近なところに図書館があることが利用する最大のポイントになってくると考えている。

小林直之委員

市民1人当たりの年間貸出冊数が15位ということだが、公共図書館によっては貸出冊数上限が20冊という図書館もあるはずなので、貸出上限冊数が影響しているかもしれない。もしかしたら、仙台市も貸出冊数の上限を15冊や20冊にしたら、もっと伸びる可能性もあるのではないか。

事務局

さいたま市は貸出冊数の上限が30冊、岡山市は無制限である。仙台市は、昨年度の途中から7冊から10冊に拡大したが、このデータは7冊の時のものである。しかし、10冊に増やしても1人当たり5.4冊には届かないと見ており、今後何とか増やして行きたいと考えている。

小林直之委員

ソフト面で頑張るという方針もまさにそのとおりで、児童図書数や子ども向け事業参加人数が上位ということは、将来に期待できることかもしれない。10年20年後に、他の項目でも良い数字が出れば、子ども向けのイベントや取り組みをすれば、しっかり市民が図書館を利用するようになるという良いケースになるかもしれないので、是非頑張っていたきたい。

根岸一成委員

図書館の存在意義は何故あるのか、図書館でどのようなことができるのかといった原点のようなものが、各図書館の立場としてあると思う。仙台市図書館のきめ細やかなサービスに大変感心した。同じようなことができるのも公共図書館の特徴であるが、図書館は資料情報を通じて人がつながっていく場であり、地域の独自性や図書館ごとの強みや魅力を発信できるとよい。図書館同士でアイデアを共有したり、あるいは地域の方や関係機関の方とアイデアを出し合ったりしていく等、さまざまな課題の一つひとつをクリアしながら、図書館があることが素晴らしいと実感いただけるような場づくりを、一緒に考えていきたい。

議長

児童図書数も全く遜色ない量があり、これらの蔵書をどう活用していくか、市の生涯

学習課でも子ども読書活動推進を進めており、今後も学校や児童館、各施設と連携して、未来の読書人を継続的に育てていきたい。このような統計も念頭に置きながら、今期の協議会を進めて行きたい。

6 その他

市民図書館長より、若林図書館の子供の読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰と配付チラシについて報告。

議長

次回の協議会の日程について事務局からご提案願う。

事務局

事務局から次回の協議会の日程について連絡。

議長

以上で議事を終了する。

7 閉会